

京都工業会 ニュース

基本理念

—21世紀を担うモノづくり集団—

京都からモノづくりイノベーション

2010 No.365

栃木県産業視察

製造業盛んな栃木の実力

10月19日、20日の両日、服部会長、林副会長ら本会役員、会員16名が、京都工業会としては初めて北関東の製造業盛んな栃木県の産業視察を行った。

福田知事への表敬訪問、栃木県経済同友会との交流を行うほか、富士重工航空宇宙カンパニーとレオン自動機を訪問し、それぞれの暖かい歓迎を受けた。

10月19日(火)

〈栃木県庁 福田知事 表敬訪問〉

栃木県庁では福田富一知事を表敬訪問した。気配りの紳士である知事からは、歓迎の言葉の後、「無名有力県から有名有力県」を目指しており、2次産業の占める割合が40%を超えるものづくり県として、重点5分野である自動車、航空宇宙、医療機器、光産業、環境について支援を行っている、との話がされた。

服部会長は、今回の訪問についての県の対応と歓迎に対する御礼を述べられるとともに、京都工業会について紹介された。

知事からは、さらに、水が豊富なため食品産業が盛んであり、もともと農業県だったが、東京から100kmという利便性もあって昭和30年代から工業団地の造成が行われてきたとの紹介もされた。



▲福田知事（前列右より4人目）を囲んで記念撮影

〈栃木県の産業政策説明〉

栃木県産業労働観光部及び企業局から栃木県の概要並びに産業政策についての説明があり、多くの指標が全国上位であることなど、あまり知られていない栃木のアドバンテージを強調されていた。

県の工業立地政策と日本の成長時期が一致したことも

あり、主要企業は昭和45年までの土地利用規制がなされるまでは企業独自に、それ以降は県の工業団地に進出し、土地単価の安さも魅力の一つとの説明がなされた。

ちなみに、いちご、かんぴょう、もやしの生産量が全国1位、ニラは全国2位という農業県でもある。

〈栃木県経済同友会との交流〉

栃木県庁の会議室において、(社)栃木県経済同友会板橋筆頭代表幹事ら11名との交流懇談会を行った。

板橋敏雄筆頭代表幹事（株）板橋通会長は、歓迎の意を表されるとともに、県同友会は、昭和63年に創立、県との密接な連携やNPO、ボランティア団体を支援するなど特徴ある活動をしていると話された。同会は、平成15年に社団法人化した230人の団体で、公益社団を目指している。

服部会長は、懇談会への感謝とともに、京都工業会は京都の経済4団体の中で、モノづくり集団として活動していることを紹介され、栃木県が農業と工業のバランスのとれた産業構造であることに感銘を受けたと述べられた。

続いて、両団体の出席者からそれぞれ詳しい自己紹介＝自社紹介がなされ、栃木と京都の企業間取引などいくつかの結びつきの事例が披露され、お互いに親近感の増した雰囲気となった。その後、県同友会と京都工業会から活動概況の紹介を行い、意見交換がなされた。

会議後、市内のホテルにおいて両団体の懇親交流会が催され、翌日の見学先のトップも参加されての和やかでまた貴重な親交が深められた。

10月20日(水)

〈富士重工業(株)宇都宮製作所（航空宇宙カンパニー）〉

売上高1兆4千億円、従業員1万2千人を擁する富士重工業(株)にあって、永野尚プレジデント率いる航空宇宙カンパニーは932億円、2300人を占め、1917年創設の中島飛行機を原点とする。また、その航空機生産の技術が自動車生産に生かされている。

宇都宮の本工場、南工場、南第2工場に加え、愛知県の半田市に2つの工場を有して、防衛省関連の固定翼練習機や陸上自衛隊のヘリコプターの製造・納入、また、



大型旅客機ではボーイングやエアバスなどの重要部分の開発・製造が行われている。広大な滑走路、ヘリポートが隣接し、自衛隊のヘリも直接離着陸する。

防需ヘリは50年の歴史を持ち自衛隊ヘリの半分を請け負い、また、ボーイング社とは787をはじめすべての機体製造に参画し、とりわけ本体と翼を結ぶ中央翼というきわめて重要な部分の生産を担っている。

飛行機生産にはさまざまなノウハウ・特殊技術があり、工場内では随所に生産性向上活動を指標化するなど“見える化”に工夫をこらされるとともに、一機流し生産や横移動を減らし自動化を進め、きめ細かな検査により品質向上にも最新の注意が払われていた。また、技能伝承のため社内でもものづくり道場が開かれている。

3つの工場を案内いただいた梅原英資ヴァイスプレジデントは根っからの技術屋といった方で、複合材の接着は最後は手貼りという人の技で仕上げるなど技術に対する熱い思いを語られていた。

〈レオン自動機(株)本社〉

資本金73億円、従業員1,000名の食品加工機械のトップメーカー。年間1万5千人が見学に訪れる人気企業で、

本社は木々の緑が美しいメルヘンチックな雰囲気すらするエントランスである。工場は別地にあり、本社研究開発部門で同社の歴史と製造デモを見学し、創業二代目の林啓二社長自らに案内をしていただいた。

創業者林虎彦氏は金沢市で和菓子屋を営んでいたが、独学で1962年に自動包あん器を発明され、その原理がレオロジー（流動学）で、社名の由来もそこにある。

社是は「存在理由のある企業たらん」で、理念は「すべては世界中の食文化の発展のために」である。

和菓子の生地と餡が包あん器を通して自在の割合でおまんじゅうとして出てくるのは見事であり、京都の和菓子屋にも多く納められているということである。

当社のもうひとつの主力製品が製パンラインである。世界110カ国に輸出されており、生地にストレスをかけない高品質なパンを作ることが特徴であり、ニューヨークやミラノの有名ホテルの9割は同社の機械で作られたパンが出されているということである。

他の企業との競合は避け、レオンの技術に裏打ちされた製品を世に出している林社長は自信たっぷりに見受けられた。

〈全体を通して〉

京都から遠く縁が薄いという印象が強かった栃木県ではあったが、多くの有力企業が製造拠点を立地し、農業も主力産業であるバランスのとれた地域であり、とりわけ見学した2企業は技術の高さを持ったすばらしい企業である。また、京都との深い関わりも感じられた視察であった。

白鷺クラブ 第401回例会

服部 重彦会長を迎え研鑽

8 / 26

8月26日夕、白鷺クラブでは5月の通常総会に本会会長に就任されたばかりの服部重彦氏（島津製作所会長）を、ホテル日航プリンセス京都に迎え、第401回例会を開催した。

“京都工業会首脳との交流”を主題とするこの会合は、企業経営の大先輩である本会役員の方々をゲストに迎え、長年にわたる貴重な体験に裏打ちされた経営のポイントについてご講話をいただき、交流を通じてその人格に触れることにより、出席会員の今後の経営指針に生かしていくことをめざし開催しているもので、毎回会員の関心の非常に高い例会であり、当日は会員多数が出席した。

服部会長からは「継続は力なり、事業は人なり」をテーマに、当社は1875年の創業以来、3度の経営危機に直面したが、都度企業基盤の二つのキーワードを軸にそれを乗り越えて継続企業として発展してきた。キーワードの一つは“明確な事業の基軸、基盤技術力、付加価値の創造”であり、これをやり遂げるのは“人”であり、“人、人材教育、トップのリーダーシップ”である。

「明確な事業の基軸」とはこだわりと、深堀で特定分野に集中的に資金を投入することであり、「基盤技術力」とは高速回転、画像処理、光、X線、精密加工、質量分

析等であり、「付加価値の創造」とは新しいニーズを取り込み、ハードとソフトの融合で裾野を拡大していくことであった。更には「人材教育—OJT」として、自らが一皮むけた実体験にふれられ、経験が知識の根拠であり、唯一の根源であるとしてその重要性を述べられた他、「経営トップのリーダーシップ」によって企業の動向が左右されることから、経営トップの自覚と研鑽の必要性を述べられた。

その後は和やかな懇親会を開催、大いに意見交換を行いながら有意義な例会を終えた。



今後、成長産業の柱と目される分野の技術、その動向

(株)三菱総合研究所 経営コンサルティング本部
市場戦略グループ参与 主席研究員 奥田 章順氏

リーディング産業での技術の将来的動向は、今後の経営を考える上での指針となり、経営トップの関心も極めて高い。そこで、三菱総合研究所 市場戦略グループ参与・主席研究員



奥田章順氏をお迎えし、日本の「ものづくり」の課題や、今後の成長産業とその動向、そして日本の持続的な成長を目指すために必要なことなどについて、非常に興味深いご講演を伺った。

関西経済の復活の条件

産経新聞大阪本社
経済部長 竹田 徹氏

停滞の続く関西経済の動向が注目される中、産経新聞大阪本社経済部長 竹田

徹氏をお迎えし、「関西経済復活の条件」と題して、設備投資の集中する大阪湾岸地域“関西グリーンベイ”、電池王国関西の現状と今後、大阪の百貨店各社の増床などが出そろい、供給過剰が予想される“2011年問題”など、関西経済の大きな流れから、関西経済復活へのカギは何かについてご講話を伺った。



菅改造内閣と日米関係のゆくえ

同志社大学法学部 教授 村田 晃嗣氏

9月に菅改造内閣が発足したことを受け、明快な解説で定評のある同志社大学

教授 村田晃嗣氏を迎え、お話をいただいた。ご講演は、現在の日本の政情分析に始まり、日米関係、日中関係、アジアの中の日本等多岐に亘り、「現在日本にとって大きなパラダイム・シフトが起こっており、これからの日本はいかなる国であるべきかを考えなければならない。またそれに答える人材の育成が必要である。」と熱弁を振るわれた。



「第30回電子システム研究科」 「第27回メカトロニクス研究科」 開講

6月30日、第30回電子システム研究科（11名）第27回メカトロニクス研究科（16名）の合同開講式が挙行された。

理論にもとづく応用力の強化、先端電子技術を習得する「電子システム研究科」と、機械と電子の接点を理解・習得する「メカトロニクス研究科」は京都府の支援と在洛の大学及び産業界の協力により来年2月下旬まで行われる長期研修である。

当日は天野嘉一京都高等技術・経営学院長（本会副会長）の式辞、そして来賓の京都府中小企業技術センター副所長・三宅修二氏よりお祝いと激励の言葉がおくられた。

＜両研究科、一泊研修を行う＞

8月27日、28日の両日、開講間もない両研究科合同の一泊研修が、綾部市での企業視察、舞鶴市での講演会及びグループ討議を行った。

27日には綾部市に所在する日東精工(株)城山工場を訪問、単軸・多軸ネジ締め機、同ロボット等の新鋭工場を見学、午後にはオムロン(株)綾部事業所を訪ね、制御機器、FAシステム機器等の製造ラインを見学した。

両社共、研修生にとって関わりが深い機器の主力生産工場であったこと、更には両社の技術紹介もなされたことから、両社及び生産された機器についての認識を大いに深めることができた。

舞鶴市内で宿泊した翌日28日には、同志社大学大学院（同志社ビジネススクール）藤原浩一准教授を講師に迎え、「テクノロジー&マネジメント」をテーマに講演を受け、様々な経営シミュレーションを体験、それを小グループに分れての討議を行った。

今回の一泊研修では普段の座学では得られない企業での実習、そして分科会での演習体験を行なうことができするなど、充実した二日間の研修を終えた。



▲オムロン(株)綾部事業所

環境対応型新技術開発支援研究会 オープンセミナー

本研究会は、「企業の有する独創性のある技術や製品を発掘し、中小・ベンチャー企業と大手・中堅企業との産・産連携による技術開発や事業化を促進すると共に、産・産連携に係る人材の交流を図る」事を目的に、平成20年度から、京都産業エコ推進機構の支援と、京都府下の公的研究機関及びインキュベーション施設等を有する諸機関の協力を得て、オープンセミナーを開催している。

平成20年度は、「不揮発性ロジック等を主体としたエコロジーデバイス」、「LED技術とその応用」、「ソフトウェア技術とその応用」をテーマに3回の開催で延べ190名が参加、平成21年度は、「リチウムイオン電池の用途拡大と自動車用途への展開」、「にのいのセンシング技術とその応用」、「省力化に貢献する三次元技術」、「グリーン電力としての太陽電池」をテーマに、4回の開催で延べ390名が参加、セミナー終了後に開催された講師を囲む産・産連携の交流会も、毎回盛会であった。

今年度の第1回セミナーは、地球温暖化ガスを2020年に25%（1990年比）削減する国の目標にとって、次世代の大幅なCO2削減技術としても注目されている「燃料電池技術」をテーマに、80名を超える参加者を得て、11月

1日に京都工業会館で開催された。

セミナーでは、独創的技術の紹介、産・産連携の対象となる要素技術の紹介を中心に、次の講演が行われた。

①家庭用電源としての「定置用燃料電池システム」について、

大阪ガス(株) C G S部マネージャー 伊中秀樹氏

②燃料電池の周辺技術となる「燃料電池の酸素濃度可視化装置」について、

(株)島津製作所

基盤技術研究所主任研究員 南雲雄三氏

③「燃料電池自動車開発取り組みの現状と今後の展望」について、

(株)本田技術研究所

四輪R&Dセンターシニアマネージャー 岡本英夫氏

④携帯用端末機器の充電電源となる「モバイル・ポータブル用燃料電池発電ユニット」について、

アクアフェアリー(株) 取締役開発部長 石坂 整氏

今年度は、引き続いてスマートグリッド及び、それに繋がる各種装置技術、材料技術、電子デバイス技術等をテーマに、合計5回程度のセミナー開催を予定している。

ウエルネス産業人材育成セミナー（第5回ウエルネス研究科） 〈ご案内〉 ものづくり技術をいかに医療関連分野に展開するか ～成長分野への参入に向けて～

医療関連分野は、景気の変動を受けにくく、世界的な高齢化社会が進むなか、今後も大きな成長が期待される分野で、医療機器等だけでなく、実験器具、材料など幅広いものづくりのニーズがあります。またそれぞれのニッチな市場での多様な要求に応えるには、高い技術を持ち、きめ細やかな対応ができる中規模・中小企業こそが適しているとも言えます。

本セミナーでは、医療関連分野で産学連携に取り組む大学研究者や企業の技術者などによる実践的かつわかりやすい講演や視察を通じて、ウエルネス産業分野に進出するためのキーパーソンを育成し、各企業の医療関連分野への参入をサポートします。ふるってご参加ください。

主 催 京都府（財）京都産業21（社）京都工業会

期 間 11月12日(金)～12月17日(金) 5日間

会 場 京都工業会館他

対 象 ものづくり企業関係者

受講料 全5回 1名20,000円（税込み）

申 込 本会事務局 TEL 075-313-0751

【講 座 内 容】

①11月12日(金) 15:15～17:15

「よくわかる再生医療と必要なものづくり」

京都大学 再生医科学研究所 教授 田畑泰彦氏

②11月26日(金) 14:00～16:30

「京都産学連携で世界初の骨密度測定装置を開発」

同志社大学 名誉教授 大谷隆彦氏

(同志社大学 生命医科学部/スポーツ健康科学部(京田辺キャンパス)視察含む)

③12月3日(金) 15:00～17:10

「金属材料を医療に生かすための基盤技術」

東京医科歯科大学 生体材料工学研究所

教授 塙 隆夫氏

④12月10日(金) 15:00～17:10

「整形外科領域で用いられる金属材料」

京都大学大学院医学研究科 准教授 根尾昌志氏

⑤12月17日(金) 15:00～17:10

「医療機器産業への参入のメリットとリスク管理」

(財)医療機器センター 医療機器産業研究所 客員研究員

日本の技術をいのちのために委員会 理事・事務局長 日吉和彦氏

「医療機器業界の動向と中小企業に期待すること」

テルモ(株) 研究開発本部 開発戦略部

主席研究員 三澤 裕氏

中堅・中小企業の 中国進出へのサポート事業

世界の注目を集める中、2ケタの急成長を続ける中国市場はもはや業種・規模の枠を越え、ビジネスとして何らかの関わりを持たざるを得ない存在となり、我が国中堅・中小企業の進出事例が急増しています。

しかし中国進出に向けて多くの課題も指摘される中、本会では中堅・中小企業が課題を克服、進出する際の手がかりを把握していただくためのサポートを目的として本セミナーを開催します。

多数のご参加をいただきますようご案内いたします。

《本事業のねらい》

- ①本会正副会長企業（8社）の担当責任者が、中国ビジネスを始める上で最重要な課題を整理し、具体的にわかりやすくポイントを把握、解説をします。
- ②理論よりも、規模別・業種別など多くの地場先進企業の進出事例に学ぶことにより、進出時の失敗を避け、基本的なルールや中国経済への認識を深めます。
- ③中国政府の動向、重要事項などの最新情報を紹介します。
- ④中国への進出の形態、協力パートナーの選定方法などについて研究します。
- ⑤本会正副会長企業の中国進出先への視察会も検討していきます。

【期 間】平成22年11月～同23年3月 計5回

【会 場】京都工業会館

【対 象】中国への進出及び中国企業との取引を検討中、あるいは将来に向けて事前知識を得たいという会員企業のトップ、及び担当責任者

【会 費】1社1名につき、
京都工業会会員企業：5回で20,000円
(会員外：30,000円)

《事務局》社団法人 京都工業会

総務課 矢谷 (TEL) 075-313-0751



▲上海万博における日本館

【プログラム】

☆毎回、中国の経済事情に精通した事例紹介者が、ものづくりを中心とした各進出事例の要点解説、また実践にあたっての助言等を行います。

社団法人	京都工業会
会 長	服部 重彦 (株)島津製作所 会長)
副会長	作田 久男 (オムロン(株) 社長)
〃	武田 一平 (ニチコン(株) 会長)
〃	天野 嘉一 (日新電機(株) 社長)
〃	依田 誠 (株)ジーエス・ユアサコーポレーション 社長)
〃	林 泰彦 (福田金属箔粉工業(株) 社長)
〃	錦織 隆 (株)日進製作所 社長)
〃	片岡 宏二 (株)片岡製作所 社長)

開催日程	内 容
11/18 (木) (14:00~16:00)	基調講演 「中国進出に向けてのポイント」 ・中国成長マーケットの実際 ・中小企業のビジネスチャンス ・中国進出のノウハウとリスク ・中国進出のための組織体制 等 日本貿易振興機構 (ジェトロ) 海外調査部上席主任調査研究員 薮内 正樹氏
12/14 (火) (14:00~16:30)	進出事例紹介 ◇(株)島津製作所 「中国における現地生産と部材調達」 島津儀器 (蘇州) 有限公司 総経理 山田 洋一氏 ◇(株)GSユアサ 「広東省順徳市 (現仏山市順徳区) に二つの事業会社を設立して」 (株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 専務取締役 椎名 耕一氏
1/26 (水) (14:00~16:30)	進出事例紹介 ◇オムロン(株) 「オムロンの経験した会社設立の形態」 中国現地法人 (オムロン有限公司) 董事長兼総経理 執行役員 後藤 龍之介氏 ◇(株)日進製作所 「労働争議」 中国現地法人 董事長 専務取締役 坪倉 誠一氏
2/15 (火) (14:00~16:30)	進出事例紹介 ◇ニチコン(株) ◇福田金属箔粉工業(株)
3/16 (水) (14:00~16:30)	進出事例紹介 ◇日新電機(株) ◇(株)片岡製作所

※内容 (講演者・演題) につきましては、若干の変更が生じるかもしれませんことをご了承下さい。

藍綬褒章御受章の栄



理 事
鈴木 三郎 氏
(株)最上インクス 会長)

会員各位とともに、
心よりお祝い申し上げます。

2010 KANSAIモノ作り元気企業100社

- ◇(株)イー・ピー・アイ
- ◇三和化工(株)
- ◇ミヤコテック(株)
- ◇(株)大日本科研

このほど、近畿経済産業局選定の「2010 KANSAIモノ作り元気企業100社」に、本会関係では4社が選ばれました。

会員各位とともに、心よりお祝い申し上げます。

2011年 新春交歓会 ご案内

輝かしい新春を迎えるにあたり、会員相互の懇親交流の場として「2011年新春交歓会」を開催いたします。

会員の皆様多数のご参加を得て、楽しく和やかに新春のひとときをお過ごしいただければ幸いです。

と き：平成23年1月25日(火) 18：00～20：00

と ころ：リーガロイヤルホテル京都

参加対象：本会会員企業で、

代表者を含め1社3名程度

内 容：☆正副会長へのインタビュー
(予定) ☆新入会員ご紹介

☆福引大会

☆ハッピーマン2011年選び…等

参 加 費：1名につき13,000円

〈品質月間事業：今、求められる品質力とは！〉

第6回 京都TQMフォーラム*ご案内

今、厳しい経済環境の中、各社では様々な経営革新活動や業務改善活動が展開されておりますが、いわゆる「品質力(仕組み・人間力)」は、これからの日本のものづくり企業において、「重要な残りへのキーワード」であると言われております。

そこで、この度、本会では品質革新研究会をベースに、「日本品質奨励賞 品質革新賞受賞企業の取り組み」「設計製造連携による品質作り」「経営課題に貢献するTQM活動」の観点から、先進企業の成果事例に学ぶことを目的に「第6回 京都TQMフォーラム」を下記により開催いたします。

と き 平成22年11月16日(火) 13：00～17：00

ところ 京都工業会館

対 象 経営革新及び品質保証担当幹部、各種改善活動の推進責任者、推進者

参加費 工業会会員企業 6,000円(税込)／人

事務局 社団法人 京都工業会 業務課主任 宮田

(TEL) 075-313-0751

〈プログラム〉

■事例紹介

①「設計製造連携による品質作り」

～後工程に不具合を流さない仕組みづくり～
エスベック(株)理事生産本部長 桶谷 馨氏

②「グローバル競争に勝ち続ける新製品開発

の仕組み作り」

～2009年度 日本品質奨励賞 品質革新賞受賞～
パナソニック(株)ホームアプライアンス社 ランドリークリーナー
ビジネスユニット技術統括グループマネージャー
周防 和馬氏

③「コマツウェイを支えるTQM活動」

～可視(見える)化による工程品質の向上～
(株)小松製作所 大阪工場 品質保証課 古鍛冶義広氏

■グループ討議とグループ別意見発表

テーマ「今、日本の品質力に求められること」

〈討議フロー〉 上記事例紹介への質問事項→テーマに対する意見や事例の交換→討議内容のまとめ

■まとめ

オムロンヘルスケア(株)人事総務グループ

林 寛氏

(品質革新研究会・アドバイザー)

京都工業会ニュース No.365

■2010年11月10日発行

■発行——社団法人 京都工業会

〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2

TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755

U R L : <http://www.kyokogyo.or.jp>

E-mail : info@kyokogyo.or.jp